

カナダの金融市場動向 Weekly Report

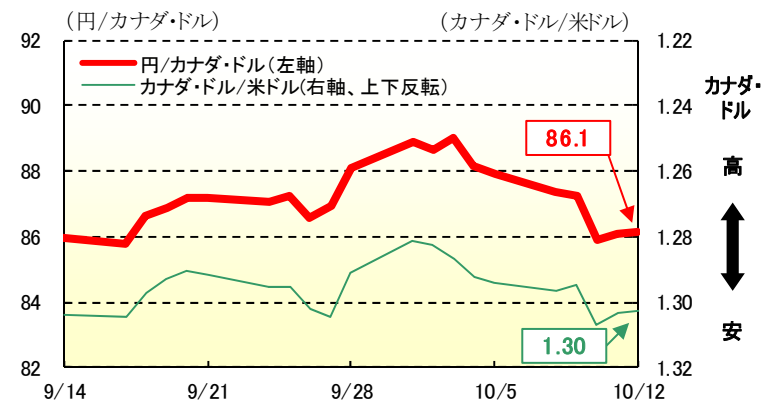
【2018年10月6日～2018年10月12日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは対円、対米ドルともに下落しました。また、カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週は、米長期金利の上昇が米企業業績にマイナスの影響を及ぼすとの見方が広がり、米国株が急落したことや米中貿易摩擦懸念などによる投資家のリスク回避姿勢の高まりなどを受けて、カナダ・ドルは下落、カナダ金利は低下しました。経済指標では、住宅着工件数など住宅関連の指標が複数発表され、市場予想を下回る結果となりましたが市場への影響は限定的となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年9月14日～2018年10月12日)



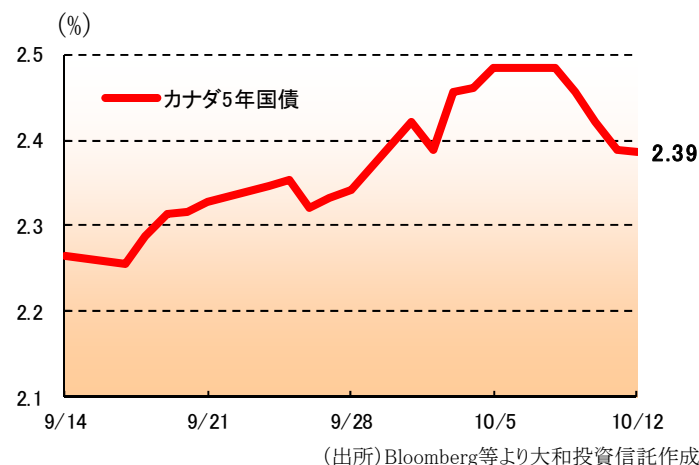
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、10/19(現地)に、小売売上高、CPI(消費者物価指数)の発表が予定されています。これらの指標が市場予想を上回る結果になれば、カナダ銀行(中央銀行)の利上げ期待が市場で高まることが予想され、通貨、金利の上昇圧力になることが見込まれます。

しかし、足元では株式市場は軟調に推移しており、投資家のセンチメントが落ち着いていないことは、カナダ・ドル、カナダ金利の上昇圧力を抑える要因となりそうです。また、ムニューシン米財務長官が日本との通商協定で日本に為替条項を求める意向を示したことを受け、円高圧力が強まる展開が想定されます。

【カナダ 金利推移】 (2018年9月14日～2018年10月12日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>